

研究開発(イノベーション)戦略

川崎フロンティアスR&Dセンターの設立

当社グループでは、首都圏の川崎市に新たな研究施設である川崎フロンティアスR&Dセンターの設立を進めています。新研究所では、名古屋クリエイシオR&Dセンターとともに当社の研究開発の中心拠点として、メディカルケア関連材料、セルロースナノファイバー、バイオ合成、次世代電池材料、半導体・電子材料、モビリティなど次世代材料の研究開発を行うほか、首都圏顧客との協創により既存事業の拡大を図る役割を担います。



2024年
夏開所予定

研究施設RGBⅢ。新研究所は本施設3階に設置。

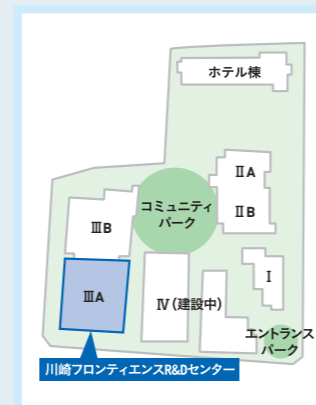
概要

名称 川崎フロンティアスR&Dセンター

床面積 2,300㎡ 従業員数 約50名

研究内容 メディカルケア関連材料、セルロースナノファイバー、バイオ合成、次世代電池材料など。
「フロンティアス」とは、先端領域の研究、新事業・新顧客の開拓を表す「フロンティア」と「サイエンス」を合わせた造語で、先端領域を科学するという意味が込められています。

所在地 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-40
RGBⅢ A棟 3階
(殿町国際戦略拠点キングスカイフロント内)



研究施設が立ち並ぶキングスカイフロント地区。川の対岸には東京国際空港。

※キングスカイフロント：国家戦略特区・国際戦略特区に指定されている川崎市殿町の再開発プロジェクトの対象エリア。世界最高水準の研究開発から新産業を創出するオープンイノベーション拠点として多くの研究施設が集積する。

特徴

1 ▶ 成長分野の高度な研究を可能にする専門設備

新研究所には様々な専門実験設備を設けます。こうした設備を活用した高度な研究開発により、新規事業の創出および高付加価値事業の拡大を推進します。

ドライルーム 超低湿度の環境に管理された空間。水分の影響を受けやすい電池材料や医薬品などの試験研究に利用される。

クリーンルーム 空気中の汚染物質(微粒子、微生物)が一定の清浄レベルに管理された空間。電子材料・半導体材料などの清浄度が要求される試験研究に利用される。

BSL 実験室 一定レベルの危険性を有する微生物、ウイルスなどを安全に取り扱うための基準を満たした実験室。

2 ▶ 顧客や社外研究機関などとの協創拠点

立地を生かして、首都圏および関東以北、海外顧客などと連携して製品開発を進めます。さらに、大学を含めた社外研究機関やスタートアップ企業などとの共同研究を通して、独創的な製品や技術を生み出すイノベーション拠点にすることを目指します。そのために、共同研究やデモ実験を行うためのオープンラボや、技術交流や情報発信の場として活用できる多目的エリアを設けます。

3 ▶ アイデアの創出を促す研究環境

新研究所では、新しい製品や技術、事業を創造するには人と人との交流がアイデアの源泉になるという考えから、様々な仕掛けを検討しています。顧客との交流を図るオープンラボ、研究発表などのイベントが開催できる多目的エリア、事業部・営業・研究が一体となって活動する組織、所属を超えて交わるフリーアドレス、実験室とオフィスの距離を縮めるラボ内オフィス等々です。そして、そこで働く人が、毎日ワクワクして仕事に臨めるような快適な環境づくりを目指しています。